

東京税理士会 四谷支部 支部長賞
「私たちの義務」

新宿区立牛込第二中学校 第三学年

消費税八%に。新聞でこんな見出しを見た。私は正直、このニュースにあまり関心がなかった。けれど「どうして五%から八%に上がるだけなのに、こんなに反対する人がいるのだろうか。」と思ったりした。その反面で「どうして消費税5%のままじゃいけなかったのかな。」などと不思議に思うこともあった。

私が消費税八%になって思ったことは、「変わらないな」だった。八%になったからといって、私には特に変わった影響はなかった。けれど母は私と全く違うことを言っていた。「八%になって、ほんとうに困る。」たしかに私は消費税を払っているが、それは自分が必要な文房具や趣味のものだけでとても安いものだった。私の親は私たちの食費、光熱費、水道代など様々なものを払ってくれている。よく考えてみると、やはり私の親が消費税が上がったことによつて大きな影響を受けているのだと、母の言葉に納得した。

この作文を書くにあつて、消費税について詳しく調べる機会があつた。調べてみると税には様々な種類があつて、職業や住んでいる環境によつて納めなければいけない税が変わってくることに、どこに納めるか、だれが納めるかによつて税の名前が変わることなど、今まで知らなかつた色々なことを少し理解することができた。それと同時に親の負担の大きさやたつた三%だけれど、その三%の違いがどれほど親にとつて大変なことかを知ることができた。私は、消費税八%になつても「今までと変わらない」と思っていた自分をとても恥ずかしく、情けなく思った。

私の親だけではない。日本の人々が納めている税金は、だったらどんなことに使われているのか。私はもう一度よく調べてみた。調べてみると、税金の使われ方は色々で、年金、教育、福祉、医療、公共事業、それだけでなく東日本大震災やその他の自然災害の復興にも使われていることを知つた。私は今まで税金に対してあまりいいイメージは持っていなかつたが、これを知つて、税金を払わなければならぬ意味や、私たちには税金を納める義務があるんだと実感することができた。

税金は私たちの周りの数えきれない所で私の暮らしを支える便利で安心なものとなつて私たちによつて使われている。私は税金について知り、税金を払う国民の一人として、税金を納める大切さも理解できた。またその一方で税金を納める大変さも同時に知ることができた。私はこれからより多くの税金を納めるようになる。けれど私は税金を苦に思つて納めるのではなく、誇りをもつて納められるようなそんな大人になりたい。それが日本に住む一人一人の義務であると思うから。